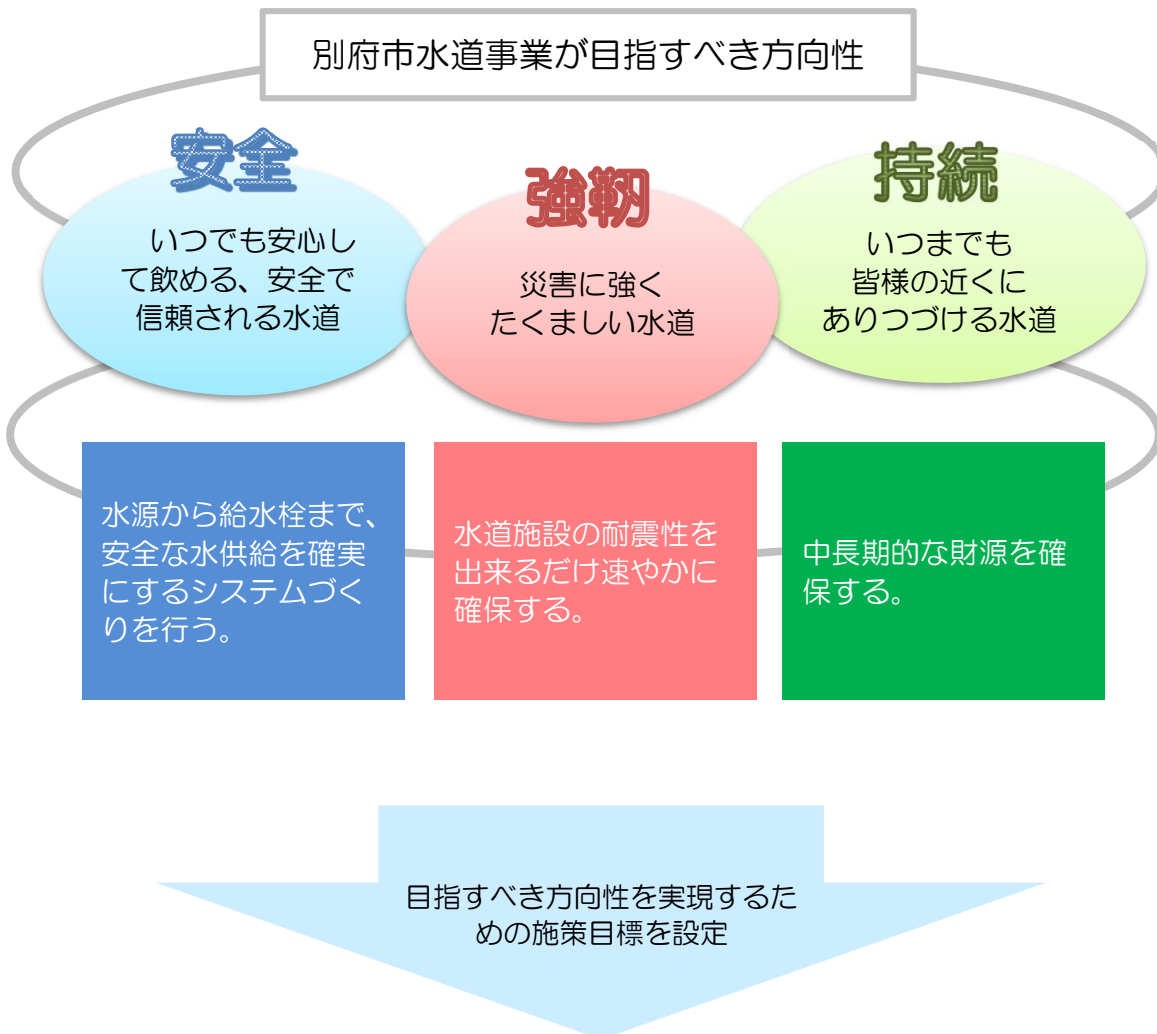


1. 水道の理想像

これからの水道は、人口減少や施設の老朽化などの水道を取り巻く環境の変化に的確に対応しつつ、50年、100年先を見据えた、いつでも、どこでも、誰でも安心して利用し続けることを可能とすることを理想像とします。

この理想像を「安全」、「強靱」、「持続」の3つの観点で表現し、それぞれを「いつでも安心して飲める、安全で信頼される水道」、「災害に強く、たくましい水道」、「いつまでも皆様の近くにありつづける水道」と定めます。



2. 目標設定

分類	目標設定
安全	適切な浄水処理を実施し、より安全な水を供給する。
	水源汚染リスク軽減のため、水質改善や水質監視・水質異常時の対応などの取組みを推進する。
	すべての小規模貯水槽の設置者に対する適切な指導を実施する。
	給水装置に対する安全性を高め、給水工事の事故を減少させる。
	鉛製給水管を解消する。
強靱	災害時の応急給水活動体制を構築する。
	すべての基幹施設の必要な耐震性を確保する、又、他の水道施設の更新に向けた取組みを計画的に実施する。
	耐震化事業の必要性、応急給水拠点や給水方法に関する市民の理解度を向上させる。
	漏水防止対策（有収率向上対策）を積極的に推進する。
持続	近隣水道事業者と実現可能な範囲から広域化の検討を行う。
	効率的で持続可能な事業運営のための民間活力を導入する。
	水道未普及地域に対し、技術協力をを行う。
	水道施設の更新に合わせ、将来の水需要を見据えた効率的な施設の配置と再構築を行う。
	収入の増収と経費の節減を実施し、収支状況の改善を行う。
	人材育成を積極的に推進し、職員の技術力、組織力を強化する。
	水道サービスに関する新しい知見及び情報の収集、整理を行う。